

A 大学病院看護師の臨床看護研究における 実践力自己評価と研究活動との関連

安田 緑^{1),3)} 有田 久美^{2),3)} 是永 孝子^{1),3)}
浦田 由香^{1),3)} 黒髪 恵^{2),3)} 松本祐佳里^{2),3)}

¹⁾ 福岡大学病院看護部

²⁾ 福岡大学医学部看護学科

³⁾ 2020年度福岡大学病院看護部研究セミナー担当

要旨：本研究は、A大学病院看護師の臨床看護研究の実践力自己評価と看護研究活動の関連を明らかにし、看護研究支援の課題を検討することを目的とした。正規雇用の看護師841人を対象として、モバイル端末を使用したWeb調査を実施した。調査内容は、臨床看護研究の実践力自己評価として、研究実施プロセスに沿って抽出した21の質問項目と、看護研究活動として、研究の実施、研究セミナーへの参加、大学教員からの指導の支援を受けた経験の有無などの5項目である。分析対象は、338人であった。結果、研究の経験者は57%、研究発表経験者は48%、看護部主催の研究セミナー受講者は62%、大学教員から支援を受けた者は22%であった。また、研究の必要性は83%が感じているものの、研究に意欲的に取り組んでいるのは38%であった。臨床看護研究の実践力で自己評価が低かったものは、「文献クリティークができる」「課題に合った調査票の作成ができる」「量的データの分析ができる」「質的データの分析ができる」の4項目であった。これら4項目と臨床看護研究活動の関連から、研究支援を充実させる3つの方向性として、共同研究者から筆頭研究者へのステージアップ、自己評価の低かった研究実践力の4項目の育成に特化したセミナーやワークショップの開催、臨床と大学が連携をとり、大学教員からの指導を充実させることの必要性が示唆された。

キーワード：大学病院、看護師、臨床看護研究、実践力、自己評価